

3 中部国際空港の二本目滑走路を始めとする機能強化の早期実現について

(財務省、国土交通省)

【内容】

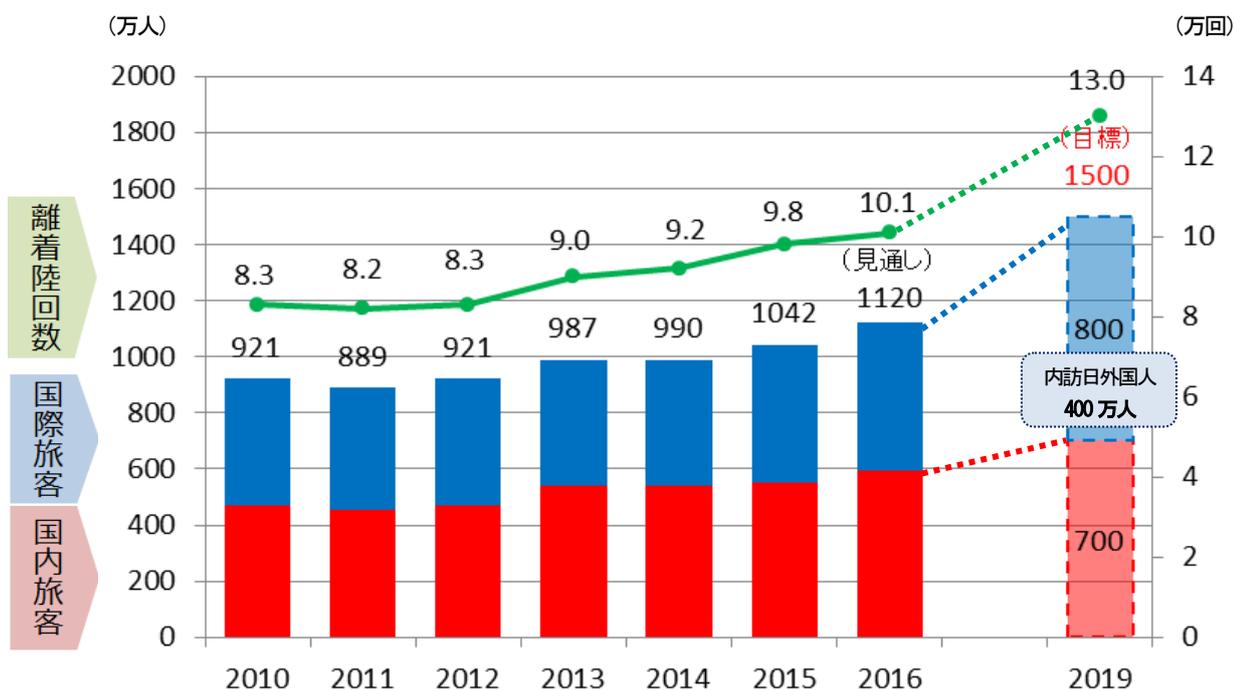
- (1) 地域と連携して、中部国際空港の機能強化に必要な調査検討に取り組むこと。
- (2) ビジット・ジャパン地方連携事業等インバウンド旅客の増加に向けた施策を始めとする航空需要拡大の取組を一層推進すること。
- (3) 急増する訪日外国人の受入に適切に対応するため、LCC向けターミナルの整備にあわせてCIQ体制の充実・強化に取り組むこと。
- (4) 空港利用者の利便性向上及び、さらなる増加が見込まれるFIT(個人の外国人旅行者)にしっかり対応するため、引き続き、道路・鉄道等の空港と主要都市や主要観光地とのアクセスの充実に取り組むこと。

(背景)

- 中部国際空港は、2005年の開港以来13年目を迎え、国際拠点空港として、我が国の航空輸送の発展の一翼を担い、国内外の人・モノの交流に大きく貢献してきた。中部国際空港株式会社では、中期経営戦略において、2019年度までに、訪日外国人数400万人を含む航空旅客数1,500万人、国際航空貨物取扱量24万トン等の達成を目指しており、昨年度は航空旅客数が1,096万人、発着回数では10.1万回と、過去最高の水準に迫る数字を記録した。
- 国の「明日の日本を支える観光ビジョン」において、訪日外国人旅行者数を2020年に4,000万人、2030年に6,000万人とする目標が掲げられている中、地域としても、この達成に向け、国とも連携、協力しながら、航空需要の拡大、航空ネットワークの充実に向けたエアポートセールスや昇龍道プロジェクトの推進、さらには、「第20回アジア競技大会」や「ワールドロボットサミット」に続く各種国際大会の招致等に取り組んでいる。
空港島内では、現在、新ターミナルビルや駐機場、さらにはボーイング787ドリームライナー飛行試験機の屋内展示を核とする複合商業施設の整備が進められています。また、愛知県が我が国初の空港隣接型となる展示面積6万平方メートルを擁する国際展示場を、2019年開業を目指して整備を進めており、今後、さらなる利用者の増加等、大きな相乗効果が期待される。
- 中部国際空港は、現在、滑走路が1本であることから、滑走路等のメンテナンス時間の確保が困難となることに加え、大規模補修の時期も迫り、また、ピーク時間帯を含め受入制約の発生が現実味を帯びてきた。
また、この地域は、モノづくりを中心に、我が国の経済を牽引しているとともに、鉄道・道路ネットワークの広域的な結節点であるなど、国土を支える社会インフラが高度に整備されていることから、これらを将来にわたり安定的に維持していくことが、国土強靱化の観点からも重要であると考えている。
- 今後、リニア中央新幹線の全線開業によって三大都市圏が一体化するスーパー・メガリージョンが形成される。この大きなインパクトを活かし、我が国の成長エンジンの一翼として、社会・経済活動のグローバルな交流を支えていくためにも、中部国際空港の二本目滑走路を始めとする機能強化の早期実現が不可欠である。

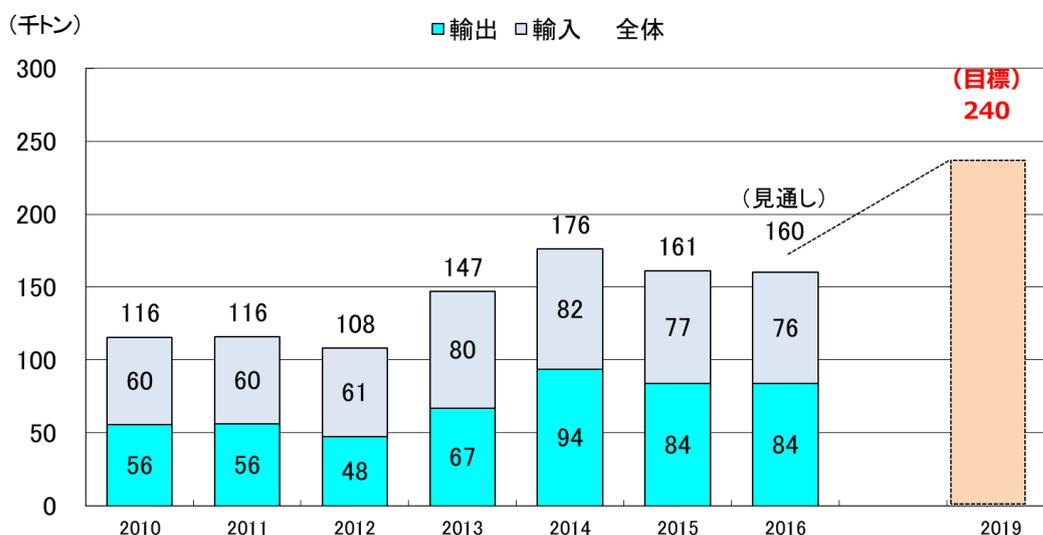
(参 考)

【中部国際空港の旅客数・離着陸回数の年度別推移】



中部国際空港株式会社作成資料を基に作成

【中部国際空港の国際航空貨物取扱量の年度別推移】



中部国際空港株式会社作成資料を基に作成

【航空需要拡大に向けた地域の実施状況】

愛知県	訪日外客誘致に向けたプロモーションと受入態勢を強化 海外でエアポートセールス等を実施 重点路線維持・拡充のためアウトバウンド需要の推進対策を実施
中部国際空港 利用促進協議会	旅行商品造成を目的とした海外旅行事業者等の招聘事業など、インバウンド需要の 拡大事業を実施 広域観光周遊ルート形成促進など、受入環境整備事業を実施 輸出入貨物を増やした荷主・フォワーダーへの支援やトラック共同輸送事業を実施 エアラインのPR支援や就航先と協力したプロモーションを実施 空港の二次交通充実に向けたバス路線に対する支援等を実施

等